

上高野だより

平成29年3月特別号（学校評価）

ホームページ 検索→「上高野小学校」

京都市立上高野小学校 校長 前谷 康孝

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/kamitakano-s/>

TEL (075) 701-3995 FAX (075) 711-1990

12月に行った第2回学校評価へのご協力、ありがとうございました。『保護者による学校評価』、『児童による学校生活のアンケート』、『教職員の自己評価』の集計結果がまとまりましたので、皆様にお知らせいたします。『保護者による学校評価』では、質問項目に対して「重要度」「実現度」の2項目でお答えいただきました。『児童による学校生活のアンケート』では、規範意識や日常生活に関する質問項目に重点を置いています。また、『教職員の自己評価』では、日常の学校生活や家庭との連携、学校運営への参画等について実現度を自己評価しました。

今回300枚の回答をいただくとともに、ご意見もいただきました。皆様からいただきましたご意見については、真摯に受け止め、本校の教育活動に生かしていきたいと考えます。今回実施しました3つのアンケートの集計結果とそこから見えてくる課題について、職員会議で話し合い、過日行われました学校運営協議会理事会でも討議していただきました。

今回、理事会で出されましたご意見や上高野小学校の今後の課題を保護者の皆様にお知らせするとともに、課題解決に向けて学校・保護者・地域の方々が連携を図り、協力して上高野小学校教育のさらなる充実を目指していきたいと思います。

なお、『保護者による学校評価』と『児童による学校生活のアンケート』『教職員の自己評価』の集計結果は裏面に掲載いたしましたのでご覧ください。

討議内容

【学校からの分析と説明・改善点】

- ・児童アンケートの「学校や学級のきまりを守っている」では、A評価の割合が夏に比べて約5ポイント下がっていた。夏よりも新しいクラスや環境に慣れ、気持ちが緩んできたのではないかな。適宜学級指導とたてわりの関係を生かし、高学年が低学年を指導できるような関係を構築し、自律した学校生活を送れるようにすべき。
- ・一人一人を大切にしたい取組は今後も継続していく。
- ・台風のときの引き渡しに非常に時間がかかってしまったのは、保護者の皆様に迷惑をかけてしまった。反省し、来年度に生かさなければならない。
- ・宿題や持ち物の忘れ物は児童の危機感が薄いように感じる。家庭と連携して忘れ物を減らす工夫も必要。
- ・教職員アンケートの「学級の子は授業中に挙手している」では、A評価の割合が減り、C評価の割合が増えている。結果を見れば挙手する児童の数が減ったように見える。しかし、夏に比べて冬は担任の児童理解も進み、「この子ならもっとできる」と評価基準が高くなり、厳しくつけたことも考えられる。
- ・教職員アンケートの「学級の子は、自分からあいさつをしている」では、A評価の割合が増え、D評価がなくなった。児童会の取組等であいさつの意識が根付いてきているのではないかな。

【理事の方々からのご意見（要約）（→は学校の回答）】

- ・クラブの数は充実していると感じる。
- ・あいさつはまだまだ。自分から挨拶してくれる子もいるが、そうでない子も多い。
- ・児童アンケートの⑪と⑫のC、D評価の割合が似通っている。もしも同じ子がどちらも低評価をつけているとすると、教師にも親にも相談しないということになる。
- ・集団登校しないのはなぜか。→①集合場所にできるところが少ない。②集合時刻になっても来ない子がいれば、家までリーダーが確認しに行かなければならない。③校区内は道路が狭い割に交通量が多い。児童の安全を考えると集団で歩かない方が良いと考える。
- ・親子間の会話の機会をつくるためにも宿題を親がみる時間をとってほしい。

平成28年度学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。本校の学校評価は前期・後期に分けてそれぞれの取組の反省と、軌道修正の判断材料とさせていただきます。同時に、毎年同じ内容の質問を入れる事で経年変化を分析したり、子ども・保護者・教員それぞれに同じ事柄に対する質問をしたりすることで、それぞれの意思のギャップを把握し、その原因を探していくようにしています(三者比較)。この三者比較で大きく答えの違いがある一例として、「忘れ物」に対する意識があります。「忘れ物をしていない」という意識は、児童が最も高く(39.7%)、ついで保護者(16.5%)、教員に至っては一割以下(6.3%)と、大きな開きがあります。1年間全く忘れ物をしないというのはなかなか難しいとしても、三者の中では少し意識の差があるように思います。一部の子ども達から聞いた感想では、「体操服とかは絶対忘れないけど、小さなものは友達から借りるからだいじょうぶ。」とのこと。また、保護者の方の御意見の中では「忘れ物をして困るのは自分。困った時どうしたらいいか考えるのが成長。」との声も。教員の意見の中では、「人から借りるという安易な解決はさせないようにしている。場合によっては貸す方が迷惑する(例えば、教科書を忘れた子と、隣同士一緒に見なければならぬ等)場合もある。」という意見もありました。自分が困った時に助けてくれる友達がいる、困っている人を助けてあげる優しい気持ち、困った時の工夫こそ成長の機会、どれも大切だとは思いますが、反面、防衛手立てを示してあげることも大切なことではないでしょうか。例えば、こまめに声をかける(たいていの場合、うるさがられることが多いです)、学校や習い事に限らず前日の夜等に持ち物を確認してから寝る、同じく寝る前に明日の予定(行動)を思い浮かべてみる等々。すべての事にアドバイスをしすぎるのもどうかとは思いますが、適度な間、的確な見取り、そして、適切なアドバイス、学校教育の場でも大切にしていきたいと思っています。なお、自由記述欄でいただいた学級経営に対するご意見、トイレの洋式化等施設に対するご意見は、今後の具体的な改善・行動の中でお答えしていきたいと思います。貴重なご意見を多数いただき、ありがとうございました。

上高野小学校 学校長 前谷 康孝

